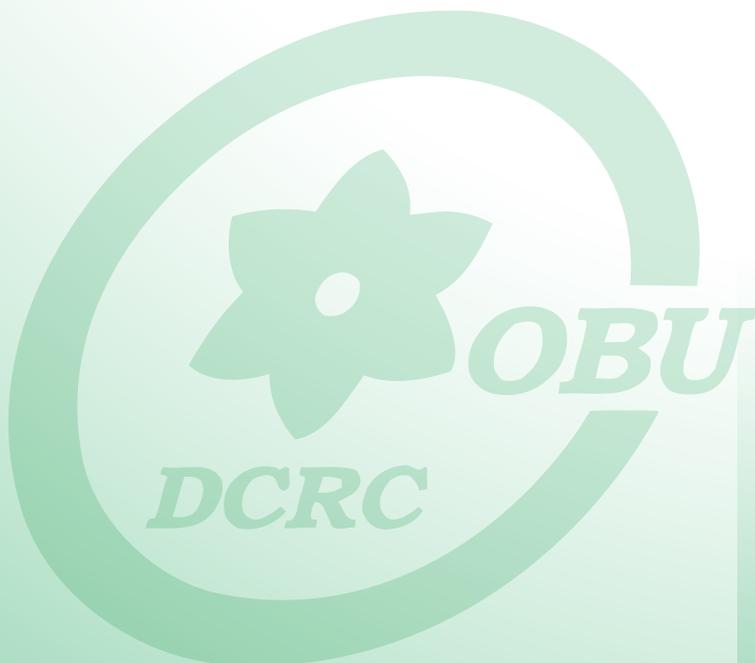




社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター

若年性認知症コールセンター

2015年 報 告 書



はじめに

世界の中で高齢化の歩みが際立って高い日本では、加齢に伴い発症する認知症の増加も欧米に比べて著しい。団塊の世代が75歳以上になる2025年には認知症高齢者数は約700万人となり、65歳以上の高齢者では5人に1人を占める見込みである。

2013年12月に英国で開かれたG8認知症サミットに次ぐ、日本後継イベントが2014年11月5-6日に東京で開催された。2日目には安倍総理が認知症新戦略を策定することを表明し、これを受けて2015年1月に、厚生労働省は関係府省庁と共同して認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定した。この新オレンジプランの7つの柱の1つが「認知症の人やその家族の視点の重視」である。

国の施策として2009年10月1日に認知症介護研究・研修大府センターに設置された全国で唯一の「若年性認知症コールセンター」には、全国各地から様々な相談が寄せられている。このたび刊行する「若年性認知症コールセンター2015年報告書」は、認知症の人やその家族の視点を知る上でも有用である。その内容を見ると、2010年には1055件だった年間の相談件数は2015年には2240件に達し、過去最高になった。また、ご本人からの相談も増加し、相談件数の41.1%を占めるようになった。このことは認知症に対する関心の高まりと、認知症を自分のこととして身近に感じる人の増加を示唆するとともに、当センターの認知度や信頼感が広がっているとも受け止めることができる。

当センターに寄せられる相談には、ご本人やご家族の思いや日頃の生活上の課題など、切実な生の声が凝縮されている。認知症の人やご家族の視点に立って物事を考える様々な材料が詰まっているとも言える。本報告書が若年性認知症のご本人やご家族ならびにそのケアに係わる人たちの情報源として、今後ともお役に立ち、認知症ケアの質の向上に少しでも貢献できれば、望外の幸せである。

2016年3月

社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター
センター長 柳 務

CONTENTS

はじめに

I 若年性認知症電話相談の概要

1. 若年性認知症電話相談とは

- 1) 対象地域 2
- 2) 相談形態 2
- 3) 相談時間 2
- 4) 電話相談員 2

2. 2015年の主な活動

- 1) 内部研修 2
- 2) 外部研修 3
- 3) 見学研修 5
- 4) 広報活動 5

II 若年性認知症電話相談の実態

1. 全体の状況

- 1) 月別相談件数 8
- 2) 発信地域 8
- 3) 相談時間 9
- 4) 相談形態 10

2. 相談者の状況

- 1) 相談者の内訳 10
- 2) 親族からの相談者の内訳 11
- 3) 相談者の性別と年代 11
- 4) 複数介護者の割合 12
- 5) コールセンターを知った媒体 13
- 6) 相談回数 13

3. 介護対象者の状況

- 1) 性別と年代 14
- 2) 介護対象者の暮らし方 15
- 3) 配偶者の有無と子どもの数 15
- 4) 認知症の有無 16
- 5) 「認知症あり+濃い疑い」の場合の相談者 17
- 6) 気づきから受診日まで、および受診日から相談日までの年数 17
- 7) 告知の有無 18
- 8) 合併症の有無 18
- 9) 社会資源の利用状況 19
- 10) 介護保険申請状況 20
- 11) 介護度 20
- 12) 介護サービスの利用状況 21
- 13) 虐待とBPSDの内容 22

14) BPSDの有無と介護サービス利用状況	22
15) 相談内容と主な相談内容の相談者	23
16) 介護度と相談の介護の悩みの内容	24
4. 相談員の状況	
1) 相談員の対応	24
2) 相談の難易度	25
3) 傾聴の度合い	25
5. まとめ	25

Ⅲ 相談事例

1. 若年性認知症に特徴的なご本人・ご家族からの相談	
1) 妻からの相談	28
2) 夫からの相談	30
3) 息子からの相談	32
4) 娘からの相談	33
5) 専門職からの相談	34
2. 状況や病状に関する相談	
1) 就労に関する相談	36
2) 運転に関する相談	38
3) 前頭側頭型認知症に関する相談	40
3. 相談員の印象に残った相談	42
4. 継続して受けている相談	49

Ⅳ 若年性認知症コールセンター相談員として今後していきたいこと

～日々の相談を受け、感じたことから～

若年性認知症コールセンター 室長 加藤 ふき子

Ⅴ 「若年性認知症支援コーディネーター」の配置に向けて

認知症介護研究・研修大府センター 研究部 研究主幹 伊藤 美智予

Ⅵ 認知症カフェの必要性

～岐阜県恵那市「ささゆりカフェ」と京都府宇治市「れもんカフェ」の視察から～

認知症介護研究・研修大府センター 研究部 研究員 齊藤 千晶

Ⅶ 資料

67